

# 「Stop! スマホ Start! スタディ!」キャンペーンの 実効性を高めるために、今、学校で取り組むべきことは？

12月1日から県下一斉に「Stop! スマホ Start! スタディ!」キャンペーンを実施しています。

実践ルールとして右の3点を示し、学校と保護者が連携を図りながら、家庭での望ましい生活習慣・学習習慣の確立を目指します。

その中で、学校として、それぞれの立場から実行力ある取組にするには何に気を付ければよいでしょうか。

## 【家庭学習 1・2・3】

- 1 自分で決めた時刻には勉強を始めます。
- 2 目標の学習時間を守ります。
- 3 学習中は、スマホには触りません！

## 1 教科担当として

こんな経験ありませんか…。



「子どもたちは、『ゲームを長時間してはだめ!』と言っても長い時間ゲームをするのは、何てだろうなぁ…。」  
 「授業中にクイズ形式の問題を出すと、ゲーム性があるからか、積極的に取り組むのに、通常の質問になると…。」  
 「自分の記録更新を目指すような競争をさせると、生徒は盛り上がり過ぎて取り組むのになぁ…。」

「生徒が自主的に勉強に取り組むようになるよい方法は何か?」という問いに、明確な答えを示すのは非常に難しいことです。しかし、その答えが難しいからこそ、先生方は、いかに分かりやすく教えるかということに腐心し、日々限られた時間の中で工夫された授業をされています。

## 「先生が分かる授業をすること」+「生徒が主体的に勉強に取り組むこと」で真の学力がつく!

授業は、その科目が好きになるか嫌いになるかを決定する重要な要素です。生徒の知的好奇心は「面白い!」から生まれます。興味・関心は授業が生徒にとってつまらない状況であると高まりません。まさに、教員の役割は、生徒の知的好奇心を引き出すきっかけをつくったり、問題に取り組みやすくなるような環境をつくったりして、「生徒の心(やる気)に火を灯す」ことにもあると言えます。



岡山県マスコット  
「ももっち」

やる気が見られない生徒は、もしかすると、「勉強方法を知らない」だけかもしれませんね…。

各校で工夫した「学習の手引き」等を作成していることと思いますが、実際にその手引きに基づいて、生徒が勉強方法を具体的に学ぶ場を設けているでしょうか?

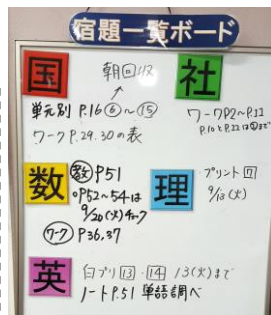
塾に通ったり補充学習などで個別に寄り添った指導をしたりすれば、点数はある程度伸びるかもしれませんが、しかし、先生方もご存知のとおり、「自分の勉強方法を知っている」生徒が、最も点数を伸ばします。

例えば、数学で点数を上げるには問題を解くことがベースになりますが、平常時とテスト前では問題への取組方は異なるはず。テスト範囲の問題集やプリントの使い方など、先生おすすめの具体的な勉強方法を「なぜその方法が良いか」という理由とともに説明し、生徒が取り組んだ課題の点検を先生がすることで、生徒の学びが変化するのはないでしょうか。

## 2 学級担任として

学期末を迎え、個人懇談等が予定されていると思います。現在、県内の多くの学校で宿題一覧ボード等を用いた宿題の見える化が進み、帰りの会等で一人一人の生徒への細かい声掛けや指導等に尽力いただいています。

今後は、これらの取組を一層進めることに加えて、学校に配付されるキャンペーンチラシを用いて懇談時に保護者へ説明し協力を依頼するとともに、各校で、生徒が主体的・計画的に家庭での生活サイクルを考える学級活動等の実施をお願いします。



家庭での時間の使い方を把握できるツールやキャンペーンの実施状況の確認に役立つ資料を義務教育課のホームページに掲載していますので、必要に応じて御活用ください。また、県教委では、生徒が望ましい生活習慣・学習習慣を確立するに当たって効果が見られた取組等について、引き続き情報を提供をしますので、参考にしてください。